

8 月の安全運転ごよみ

1日（金）～31日（日）…道路ふれあい月間 25日（月）～31日（日）…道路防災週間
11日（月）…**山の日** 19日（火）…バイクの日 20日（水）…交通信号の日

8 月の安全運転目標

高速道路を安全に走行するために

8月は、帰省やレジャーなどで高速道路を利用する機会が増えることが予想されます。高速道路は、歩行者や自転車の通行がなく、一般道路よりも安全と考える運転者も少なくありません。しかし、高速走行となるため、少しの運転ミスが重大事故に発展するおそれがあります。今月は、高速道路を安全に走行するためのポイントを紹介します。

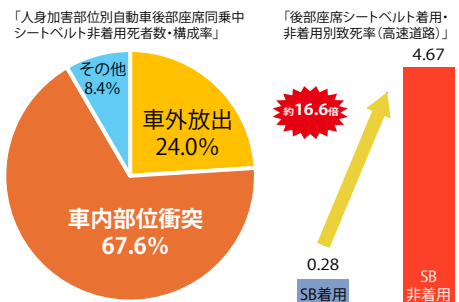


全ての座席でシートベルトを着用しよう

2008年6月1日に、後部座席のシートベルト着用が義務化されました。高速道路での着用義務違反は、運転者に対して行政処分の基礎点数1点が付されるだけでなく、後部座席でシートベルトを着用せずに交通事故に遭った場合、「車内で前進を強打する」「車外に放り出される」「前席の人に危害を加える」といった危険があります。

また、高速道路における、後部座席シートベルト非着用時の致死率は、着用時の約16.6倍も高くなっています。

車に乗る際には、後部座席を含む全ての座席でのシートベルトの着用を徹底してください。



出典：警察庁HP

○ 事 | 故 | 事 | 例



停止表示器材を設置しなかった運転者に過失を認定

2017年10月1日午前6時25分頃、首都高速道路で、トラブルにより路肩に停止した乗用車に、トラックが追突する事故が発生。

事故の主な責任は追突したトラックの運転者にあるものの、高速道路上に停止したことや、発炎筒や三角停止表示板等の停止表示器材を設置しなかった乗用車の運転者に対しても、1割の過失が認められました。

高速道路上にやむを得ず停止する際には、ハザードランプを点灯して、可能なかぎり発炎筒と停止表示器材を設置して、後続車に合図を送りましょう。
(横浜地裁2022年6月3日判決)



高速道路上の危険を**意識**しよう

工事規制箇所での事故が多発

近年、高速道路上では各地でリニューアル工事が実施されており、それにとともに、工事規制箇所への衝突事故や、車線規制により発生した渋滞車両への追突事故が多発しています。

まずは事前に工事規制情報を確認しておきましょう。そして、工事規制箇所では、規制標識をしっかりと確認して、規制速度を守るとともに、余裕を持って車線を変更しましょう。

また、渋滞最後尾に近づく際には、ハザードランプで後続車に合図を送るとともに、ゆっくりと減速しながら渋滞車列に近づきましょう。



工事規制箇所では早めの車線変更を

高速道路上での「人」との事故に注意

高速道路では、故障や事故などで路上に降り立った人に、衝突する事故がたびたび発生しています。走行中は、「前方に停止車両や人がいるかもしれない」と考え、前方に注意して、わき見をしないようにしてください。

一方、事故や故障等で高速道路上に停止した際には、本線や路肩を歩き回ってはいけません。ハザードランプや停止表示器材等で後続車に合図した後は、自車より後方のガードレールの外側に避難して、110番や非常電話などで通報しましょう。



停車車両周辺の「人」を警戒しよう

管理者として
知っておきたい知識

2日に1回の割合で**逆走**が発生

高速道路での逆走は全国で2日に1回の頻度で発生しています。逆走情報を見聞きした場合は、速度を落とし十分な車間距離をとって、前方に注意して走行しましょう。逆走車は、進行方向右側から接近してくることが多いため、追越車線を走行し続けられないことも重要です。

逆走をしないためには、高速道路に乗るときやSA・PAを出るときは、標識や道路標示をしっかりと確認してください。

このほか、高速道路では、バックやUターンは禁止されています。行先を間違えた場合は、次のインターチェンジまで向かい、料金所に申し出てください。



標識・標示はしっかりと確認しよう